

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



5年経験者研修

令和5年5月9日（火）午後3時～午後5時に5年経験者研修を行いました。講師は本センター山野元気指導主事で、研修テーマは「組織づくり メンタリング【理論】－初任者教員等のキャリアを援助する存在－」です。メンタリングとはメンター（先輩）がメンティー（初任者）に寄り添いながら、自ら見本を示し相談を受けアドバイスを与えながら共に考えていく研修です。受講者の中には5年前にメンティーとして研修を受けた人も多く、「もう5年もたったんや」との声も聞こえました。この日の研修の中では、5年前の自分自身を振り返り、初任者がどんな気持ちでいるか、どんなアドバイスが必要なのか、自分自身で考えるとともに、班のなかで話し合い、全体でも考えを共有しました。



<受講者感想>

- ・メンタリングを通じて、メンティーの初任者とつながることで、初任者は勿論のこと、メンターである自分自身にもとても有益であるということがよくわかった。相互作用によって、この1年でどのような変容があるか楽しみである。
- ・コーチングの方法を学んだことで今の自分を振り返ることができた。また、気持ちの持ち方が変わり、自分がうまくやろうとするだけではなく、学校をよくしよう、他の先生の困っているところに気づいてサポートしよう、という気持ちが強くなった。それによって生徒に対する接し方もまた変わってくるのではないかと感じている。自分の強みを活かしたメンタリングの方法も考えて取り組んでいきたい。
- ・自分より経験年数の少ない教員のために、自分が今まで学んだことを伝えていきたい。特に自分は失敗からも多くのことを学んだ。立派な見本になるかどうかはわからないが、今の自分が頑張っている姿も示していきたい。そして、なにより若手の先生が頑張りたいと思える学校づくりにしたい。
- ・5年目とはいえ自分自身もまだまだ学ぶことがたくさんあるので、より分かりやすい授業ができるように、教材研究にも力を入れていきたい。特にICTの活用については、手段が目的になることがないように気をつけながら、効果的な活用方法を身に付けていきたい。

初任者研修③

令和5年5月11日（木）午後3時～午後5時に初任者研修③を行いました。講師は本センター鈴木雅博指導主事で、研修テーマは①「セルフマネジメントについて」 ②「授業づくりについて」 ③「水泳指導について」です。座学・グループワークを交互に行いました。最初

のグループワークでは、着任して1か月「先輩の先生方とどんな話をしたか、何を学んだか、今どんな悩みがあるか」を各自考え交流しました。①では、自分自身のタイムマネジメントの大切さと、情報共有の大切さを、②では学習指導要領にもあるように「主体的・対話的で深い学び」を行うにはどうしたらいいかについて考えました。③は6月に行う水泳指導研修に向けての説明等を行いました。



<受講者感想>

- 毎日、授業を行うこと自体に必死になっていて PDCA サイクルができていなかったと気づいた。これからは、できるだけ多くの教科の自己改善を PDCA サイクルを用いて行っていくと思う。
- 社会が急速に変化していく今の時代だからこそ、自分自身もそれに合わせてアップデートしていくことが大切であるということを実感した。今後研修の必要性を強く感じた。初任者研修以外にも、自身の興味のあることから研修に参加することで自分自身を成長させていきたいと思う。
- 今回の研修で学んだように、自分にあったセルフマネジメントの方法を学んでいきたいと思う。また、子どもが楽しいと感じ、知識を増やそうと思える授業を作ることができるような知識を増やし技術を高めていきたいと思う。

教頭研修会(特別支援教育)



令和5年5月12日(金)午前9時30分~午前11時30分に教頭研修会(特別支援研修)を行いました。講師は一般社団法人発達支援ルーム「まなび」今村佐智子理事で、研修テーマは「特別支援教育の推進について一通級指導教室・校内体制」です。冒頭のあいさつの中で、本センター打抜真由美所長より、この研修で学んだことを持ちかえり、特別支援教育を学校教育の柱の一つにとの要望がありました。

<受講者感想>

- 教育相談の在り方等、学校としてどのように動いたらよいかという部分がよくわかった。学校に持ち帰り、取り入れることができる部分を取り入れて、本校の特別支援教育の充実に役立てたい。
- アセスメントの必要性について、今回再確認することが出来た。特に経験年数の少ない教師は、アセスメントを何か大変な大きなものと感じている場合もあるが、指導するうえで必要な日常的なものとして伝えていきたい。
- 本日の研修内容は日々実践していることも多かったが、それらを整理しながら聞くことができた。今後も子どもたちの笑顔をめざして丁寧にとりこんでいきたい。
- 低学年段階での「早期発見・早期支援」が大変重要で、アセスメントが本当に大切だと学べた。また、個別の指導計画も、より具体性を重視して作成していきたい。

講師のための基本研修①



令和5年5月12日(金)午後3時30分～午後5時に講師のための基本研修①を行いました。講師は教育政策課林達也指導主事で研修テーマは「サービスについて」です。

<受講者感想>

- 今回の研修を通して、職務を遂行する上で守るべき義務について深く学ぶことができた。特に体罰や個人情報の流出については認識を新たにしました。体罰は物理的なものだけでなく、言葉などの間接的なものも言及されました。生徒の心を傷つけるような言葉も体罰であると思う。個人

個人情報の流出では、いかなる場合も生徒の写真などを SNS に載せてはいけないことも分かった。できれば生徒にもこの重要性を指導していきたい。

- 不祥事は教職員間で、コミュニケーションが上手に取れなかったりすることで、起こってしまうということを理解した。いわゆる風通しが良いかどうかということが大切である。先輩後輩を問わず、しっかりコミュニケーションをとっていきたい。

CAP子どもワークショップ事業教員研修



令和5年5月12日(金)午後3時30分～午後5時にCAP子どもワークショップ事業教員研修(教職員ワークショップ)を行いました。講師はCAPプロジェクトやおの方々です。CAP(キャップ)は子どもが暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。

特別支援教育コーディネーター研修②・特別支援教育研修①



令和5年5月15日(月)午後3時30分～午後5時に特別支援教育コーディネーター研修②・特別支援教育研修①を行いました。講師は兵庫教育大学小川修史准教授で研修テーマは「支援教育におけるICT活用について」です。ICT技術の最新の知見を紹介していただくとともに、それらがもたらすであろう新しい社会、その中における支援教育についてご講義いただきました。今回の研修は集合型研修とリアルタイム研修を併用しました。

<受講者感想>

- 支援学級でも学習に向き合うことが難しい子どもたちに本当の意味で寄り添うためには、できることを積み上げ、できないことにトライしようとする気持ちを溜めることなんだという

ことを忘れず、明日からも一緒にがんばりたいと思う。

- 目で見えるものを、児童とともに共有し、楽しみや達成感や喜びにつなげていけたらと思った。
- 障がいのある子どもに対して特別な ICT 活用を考えるのではなく、他の子どもにも応用できるものを考えていくという視点をもつことが大事だと学んだ。

春のつどい



令和5年5月中に、全中学校区で「春のつどい」を行いました。令和5年度は「春のつどい」は市内の小中学校・義務教育学校の支援学級に在籍する子どもたちが中学校区ごとに集まってゲームなどを行い楽しいひと時を過ごしました。

左の写真は「ボッチャ」というゲームを行っている様子です。「春のつどい」は八尾市教育研究会支援教育部が中心となって実施し、八尾市教育委員会がバックアップしています。

校長研修会（小中一貫教育）



令和5年5月18日（木）午前9時30分～午前11時30分に校長研修会（小中一貫教育）を行いました。講師は京都産業大学西川信廣教授で研修テーマは「小中一貫教育をどう進めるかー八尾市の取組みの進展に向けてー」です。最初に、本センター打抜真由美所長より「小中一貫教育推進にかかる児童生徒実態調査から見る八尾市の現状について」とのテーマで分析と考察を述べました。続いて、西川教授からテーマに沿って、小中一貫教育の意義や先進地域の事例紹介、これからの小中一貫教育について講演がありました。

新任支援学級担当教員研修



令和5年5月18日（木）午後3時30分～午後5時に新任支援学級担当教員研修を行いました。講師は本センター戸田智規指導主事で、研修内容は①特別支援教育に関する基礎知識②大阪府・八尾市における特別支援教育の現状③発達障がいの特性理解に基づいた子どもの理解④多様な場面での子ども・保護者への対応の4点です。

<受講者感想>

- 支援を要する子どもに個に応じた支援を行うためには、得意なこと苦手なことを把握することが大切であると感じた。また、教師が子どもの行動に対して、「困った」と捉えるのではなく、その子の行動の背景を考えることで適切な指導を行えることを学んだ。現在、授業中に机の下に潜ったり、苦手なことから逃げたりする子がいるが、何に困っているのか、どうすることが苦手なのかをしっかりと見極め、寄り添いながら子どもを見ていきたいと思う。

- 個別の教育支援計画と個別の指導計画の違いなどを改めて確認できたことで、2学期以降の作成にも役立てていこうと思う。また、どのような児童に対してどのような対応をしているか、他の学校の様子を聞くことで自分の対応を考えるきっかけになった。

2年次研修(令和4年度初任者研修②)



令和5年5月19日(金)午後3時~午後5時に2年次研修(令和4年度初任者研修②)を行いました。講師は桃山学院教育大学松久眞実教授で研修テーマは「児童生徒理解を深めるために3『1年間を見通した学級経営の道筋』」です。

<受講者感想>

- 自分自身が日常の中で、叱り方や話し方で改善すべき点にたくさん気づいた。授業をしながら、気になるところを注意してしまったり、聴覚的な刺激が多かったりと、できるだけ改善していきたい。
- 講義を聞いて、「音は音をよびよせる」と聞いてまさしくそうだと感じた。叱るときは「短く、太く」や「叱りレベル」の叱り方を聞いて、こういう風に対応したらいいんだと気づくことが出来た。自分自身の対応を来週から改めてクラスの児童と向き合いたいと思った。そして、自分自身の軸をもう一度見つめ直したいと思う。
- 講義を聴きながら自分自身の反省点がすごく思い当たった。大きな声で何度も注意をしてしまい、説明が長くしゃべりすぎてしまっていた。だから私語が多く、クラスとしてまとまりがなくなってしまったのかもしれない。今日学んだことを月曜日から活かしてできることからはじめようと思う。3つの秩序フェーズについて、具体的なやり方をまた機会があれば学ばせていただきたいと思った。

通級指導教室担当者会②



令和5年5月19日(金)午前9時30分~午前11時30分に通級指導教室担当者会②を行いました。最初に本センター辻佳与子指導主事をファシリテーターとしてブロックの交流会を行いました。その後一般社団法人 発達支援ルーム「まなび」の今村佐智子理事から「通級指導のアセスメントとは」とのテーマで講義をしていただきました。

<受講者感想>

- アセスメントシートの書き方、面談の仕方、個別の指導計画の書き方等具体的に教えて頂き、とてもよくわかった。アセスメントを丁寧に行うことで、課題に対して正しい支援ができると思うので、今日教えていただいたことをしっかりと実践していきたいと思う。
- 通級の指導を開始して、個別の指導計画や教育支援計画を立てたり指導したりする上で、アセスメントの重要性をより感じている。今回の研修でロールプレーをして、具体的にどのようにするかがよく分かった。それと同時に自分の中の引き出しを増やしていかなければならない事も痛感し、少し焦る部分もあるが、一つずつ丁寧に進めていきたいと感じた。前半、他校の先生方と情報交換できたこともよかった。

幼児教育研修<キャリアステージ研修①>



令和5年5月19日(金)午後3時~午後5時に幼児教育研修<キャリアステージ研修①>を行いました。講師は関西大学山縣文治教授で研修テーマは「自分の人権感覚に気づき、人権意識を高めよう ~子どもを尊重する保育実践につなげるために~」です。

<受講者感想>

- 「先生」という立場を子どもにとって、良き理解者、安心できる大人として感じてもらえるよう、たえず意識することの大切さをしっかり身につけられたらと思う。
- 自己点検では、どのようなかかわりが良いのかというポイントまで書いてくださっているので、今後はもっと意識して子どもとかかわっていきたい。
- 子どもたちに対して、普段の保育の振り返りができ、今後の保育に活用していける部分が多かった。
- 保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領と幼稚園教育要領を人権の視点で見て考えることがなかったので、とても勉強になった。
- 人によって人権感覚が違うからこそ話し合い、色々な考えやかかわり方を学ぶことが大切だと感じた。
- チェックリストについては「園内学習会1時間で話ができるものとして作成したもの」との先生のお言葉で「なるほど」と思い、是非学習会などで機会を見て取り入れたいと思った。

幼・保・こ・小合同研修会①



令和5年5月26日(金)午後3時30分~午後5時に八尾市文化会館(プリズムホール)で幼・保・こ・小合同研修会を行いました。講師は関西国際大学椋田善之准教授で講義テーマは「幼・保・こ・小連携・接続の重要性について」です。講義のあと年間行事予定の説明とグループ交流(授業公開・保育見学の日程調整)を行いました。

<受講者感想>

- スタートカリキュラム(遊びの時間を意図的に設ける)はとても興味深いものだ。自ら考える意欲につながると思う。
- 幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」の10項目について、子どもたちが自ら身に付けていくのを見守り、サポートしていくという園の取り組みは素晴らしい。
- 小学校で指導要録を参考にしてもらっていることを知り、年長期の大切さを改めて実感した。
- 遊びの重要性を再認識した。子どもたちは遊びを通して言葉やルール・概念など、学んでいるということがわかった。
- 今後も幼・保・こ・小連携・接続が大切だと思った。

研究協力員全体会



令和5年5月29日（月）午後4時～午後5時に研究協力員全体会を行いました。研究協力員は教育委員会が各学校長からの推薦を受けた教員を任命し、研究活動を行います。今年度は13部会、72名が研究協力員として登録しています（5月26日現在）。研究成果は1月の成果報告会で共有するとともに研究紀要としてweb等で発信し、学校教育活動に活用していきます。

研修の後半では、部会ごとに分かれて年間の研究テーマ等について協議しました。

初任者研修④水泳研修



令和5年6月1日（木）午後2時～午後5時に初任者研修④水泳指導研修を八尾市立屋内プール「しぶき」で行いました。安全配慮に関する部分はwebのオンデマンド研修で研修済みです。当日は実技指導を中心に行いました。講師は「しぶき」のインストラクターで、児童生徒に水泳指導を行う上でのポイントなどを指導していただきました。特に安全面での指導に重点を置いた指導でした。

左の写真は、プールで安全監視を行う場合の立ち位置を説明してます。対角線上に立つことを基本に、移動しながら目視します。角度によ

っては水中が見渡せないこともあり、注意が必要です。溺れて浮いている人を救助する訓練で、「大丈夫ですか？」と何度も声をかけながら、本番さながら真剣に行われました。もちろん泳法に関する指導も実地に行いました。体の動かし方や水中での姿勢などについて丁寧に指導を受けることができました。

<受講者感想>

- 中学校所属で体育科ではないので、実際に水泳を指導する機会はあまりないが、緊急の場合に助ける時の注意点など、実演で学ぶことができて良かった。水泳指導以外に、川や海で救助の場面にいつ遭遇するかわからないので、普段から今回の学んだことを意識して心掛けていきたいと思う。分かりやすい伝え方、実演の方法など、児童生徒の考えや特徴をしっかりと理解した上で行われていて、指導方法についても勉強になった。また水泳の研修があれば、積極的に参加したい。
- 安全管理について、まずプール監視の際は対角に立ち、同じプールサイド側に複数人立たないことが大切だということ学んだ。さらに、溺れている人を発見し救助する場合は、救助者が肩まで水に浸かり、両脇に手を入れ気道を確保してからプールサイドに後ろ向きで進んでいくということ学べた。ここでの研修を活かして、今後の水泳指導にあたっていきたいと思う。
- 水泳学習における補助のやり方を詳しく学ぶことができたのが一番の収穫であった。実際自分が泳ぐのと、泳ぎ方を教えることはまた違う。子どもたちが泳げるようになるまでの段階をスモールステップで細かく教えていただいた。特にバタ足からのクロールは自分自身どう

すればわかりやすくなるか悩んでいたところだったので、現在のニーズにあった研修になって有難かった。

小中一貫教育担当者研修①



令和5年6月5日（月）午後3時～5時に小中一貫教育担当者研修①を行いました。ファシリテーターは本センター鈴木雅博指導主事です。各自自分の学校の小中一貫教育の取り組みを振り返り、他校区の担当者との交流を通じて、令和5年度の取り組みをより豊かなものにしていけるように考えを深めました。

<中学校区で9年間を見通した教育を行うために必要なことはどのようなことと考えますか。ご自身のお考えを書いてください。>

- ・現時点では、中学校区の全ての教職員がお互いの小中学校の現状について、理解を深めること。
- ・スクラップ&ビルドを意識しながら無理のない計画ですすめること。
- ・育てたい子ども像をしっかりと共有し、そのために必要なことを実践していくこと。中1ギャップをなくすことも大事であるが、ギャップに適應できる子どもを育てることが大切である。
- ・中学校校区で連携した組織体制（研究分野を合わせる等）の構築。

<本日の研修で印象に残った他の中学校区の取り組みは、どのようなことがありましたか。>

- ・小中で共通の取り組みを積極的に取り入れている学校が多く、教科・校務分掌・部会でも密に連絡を取り合っている学校が多くあるということがわかった。
- ・児童に対して、中学校に入る上で不安なことのアンケートをとり、それに対して生徒会から返答するというのが興味深い取り組みだと感じた。
- ・中学校教員が小学校で授業を行っている。校区での授業参観を他の取り組みと合わせて、見学できる機会を増やしている。
- ・家庭学習に課題があるため、中学校区で自主学習についての部会があるということ。

5年経験者研修③



令和5年6月6日（火）午後3時～午後5時に5年経験者研修③を行いました。講師は奈良教育大学粕谷貴至教授で、研修テーマは「児童生徒理解と発達を支える指導・援助」です。

<受講者感想>

- ・心理面に関してなかなか学ぶ機会がなかったので、本当にためになりました。行動要因を考える際に、心理面が大きくかかわっていること、そういった知識があることで私たち教員の考え方の幅も変わってくるので、学び直したいと思った。
- ・自身のクラスの児童を思い浮かべながら聞くと、納得できることや児童理解が深まるものが多くあった。また、今自分のやっているアプローチで有用なものもあることが分かり、励みにもなった。
- ・今回の研修は、今まで自分が関わった子どもたちや今のクラスの児童が思い浮かぶ話ばかりだった。特に感情のコントロールの話では、班での話し合いがとても勉強になった。子どもが安心して学校に通うことができるよう、今日学んだことを実践していきたい。
- ・生徒理解の大切さを今日の研修を通して再確認することができた。生徒の行動にはいつも何か意味があって、それをしっかりと教師が理解することが大切だと思った。また、教師と生

徒のつながりだけでなく、生徒同士のつながりや関わりを大切にすることが一人ひとりの自尊感情を高めたり、安心感につながると思うので、これからもそのつながりを大切にしながら指導を進めたい。

「音楽」授業づくり研修

令和5年6月8日（木）午後3時30分～午後5時に「音楽」授業づくり研修を行いました。講師は兵庫教育大学河邊昭子教授で、研修テーマは「魅力ある音楽科授業づくりを考える」です。



＜受講者感想＞

- 学習者（子ども）の目線になるということはこの授業であっても大切だと感じました。
- ただ歌うだけではなく、どのような音色で、強弱で、声色で歌うのかなどを問いかけるだけで全然ちがうものになるのだと改めて思った。音楽の授業の中で、一人ずつ歌わせる、フレーズでまわしてみるなどいろいろな手法も明日からの授業でいかせていけたらと思う。
- 専門的なことも学ぶことができ、有意義な研修になった。

担当する小学1年生の内容もたくさん出てきたので嬉しかった。まずは拍を身に付けることが中学年、高学年、中学校につながるということを意識して指導したい。

- 「拍」や「拍子」など、言葉としてはよく使うが、実際「拍の間隔」であることや「まとまり」とあるという内容を理論的に把握することができてとてもよかった。音楽は感覚的要素が強く、言葉にすることに悩むことも多いが、効果的な声掛けに関しても学ぶことができて良かった。

首席・指導教諭研修



令和5年6月9日（金）午後3時～午後5時に首席・指導教諭研修を行いました。講師は天理大学千原雅代教授で研修テーマは「不登校支援について考えるー共感的理解と見立てにもとづく支援ー」です。今回は首席と指導教諭が合同で研修を受けましたが、2回目以降はそれぞれ別の内容で研修を行います。

＜受講者感想＞

- 不登校支援に関してたくさんのことを学ぶことができた。さまざまな対応方法や、児童・生徒の現状を多く知ることができて、よかった。

本校は今年度よりSSWが配置されましたので、担任をはじめ、多くの先生がたとつながっていったらと思う。

- 「見立て」を誤ってしまうことで状況が悪化したり、子どもにとって必要な支援ができなくなったりするということを、改めて認識した。
- 事例を交えながら、理論的にお話いただいたので、課題のある子どもたちへの対応がよくわかった。話の中で、教師側は一定の見解をもち、ネガティブな思いに耐えながら変化を待つ。という話が大変印象に残った。発達課題を持つ子どもたちと関わる時に、絶対に感情の波に身を任せて、子どもに向き合ってはいけないとも、再認識した。また子どもと保護者の間の立場にたって物事を考える、という視点もこれからの自分に取り入れていきたいと思う。

令和6年度使用教科書展示会

教育センターには『八尾市教科書センター』が設置されております。

令和6年度使用教科書展示会を開催しています。多くの市民の皆さまに見ただけよう八尾市立八尾図書館でも教科書展示会を実施しております（当該教科書の貸し出し、コピー等はできません）。

【教育センター】

・6月2日（金）～7月5日（水）午前9時～午後5時
（土、日、祝日を除く）

【八尾図書館】

・6月14日（水）～7月4日（火）午前10時～午後5時
（水～土曜日は午後7時まで

※毎週月曜日と毎月最終木曜日は休館）



教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。通常は教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っておりますが、教科書展示会を行っている期間中は、教科書の貸し出しはできません。今回は5月から6月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）6月号

- ・特集 意欲をはぐくむ

「道徳教育」（明治図書）6月号

- ・多面的・多角的思考を生み出す 発問大全

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）6月号

- ・特集1 支援級や通級の子が学校行事で成長できるように
- ・特集2 学校に不信感を抱えている保護者への対応

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集・東洋館出版社）6月号

- ・特集 子どもたちの学びの充実のために、授業のブラッシュアップを図る
授業づくりエキスパート

「初等教育資料」（文部科学省編集・（株）東洋館出版社）6月号

- ・特集Ⅰ 文化芸術による創造性豊かな子供の育成
- ・特集Ⅱ [特別活動]互いのよさや可能性を発揮し、自治的能力を育む特別活動の推進

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）6月号

- ・特集Ⅰ 学校段階間の接続を踏まえた指導に向けて①
＜国語，社会・地理歴史・公民，数学，理科＞
- ・特集Ⅱ 地域と創る防災教育

教育科学「国語教育」（明治図書）6月号

- ・特集 「言葉による見方・考え方」を鍛える学習課題120

教育科学「社会科教育」（明治図書）6月号

- ・特集 思考ツールを生かした授業&板書モデル

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）6月号

- ・第1特集 数と計算領域における数学的な見方・考え方とその成長とは
- ・第2特集 学年進行に伴い事象を考察する際の式の役割は何か

